「教養日本力」高度化推進プログラム
ルーマニア・ブカレスト大学調査報告

調査者：　留学生日本語教育センター　鈴木智美

訪問先	ルーマニア・ブカレスト　ブカレスト大学 外国語外国文学部 東洋語東洋文学学科 日本語日本文学専攻 Japanese Language and Literatures Section, Oriental Languages and Literatures Department, Faculty of Foreign Languages and Literatures, University of Bucharest , Romania
訪問目的	1.「教養日本力」高度化推進プログラムの概要説明 2. 訪問校における日本語・日本関連教育に関する調査 （授業見学、学生インタビューを含む）
調査日	2010 年 3 月 10 日～3 月 12 日
調査方法	1. 日本語日本文学専攻の 2 名の先生にインタビュー （Anca FOCSENEANU 先生、山口明先生） 2. 日本語授業見学 （Anca FOCSENEANU 先生、Roman PAŞCA 先生、山口明先生、宇都宮絵里先生） 3. 日本語日本文学専攻の学生 4 名にインタビュー
調査結果	【日本語日本文学専攻】 ・ 1975 年開設。ルーマニアで最も伝統のある日本語学科。様々な言語の専門家育成を目標とする外国語学部の中で、東洋語学科としては中国語、韓国語に続き開設された。2005 年には日本研究を含むアジア研究の大学院修士課程も設立された。（ルーマニア国内では、計 10 の大学で日本語が教えられている。） ・ 現在、国際交流基金「さくらネットワーク」（JF にほんごネットワーク）の一員。ルーマニアの日本語教育機関の中核的役割を担っている。 ・ 専任教員 5 名（言語学、文学・歴史）、非常勤教員 1 名（言語学）（いずれも現地ルーマニア人教員） ・ 国際交流基金より派遣教員 2 名（専門家および指導助手、いずれも日本人教員） ・ ブカレスト大学日本語日本文学専攻の専任教員 2 名が、初代および現在のルーマニア日本語教師会会長を務める。今年夏にはヨーロッパ日本語教育シンポジウムをブカレスト大学で開催予定。

【授業】

・1コマの授業は120分（2時間）。通常途中10分の休憩をはさむ。授業開始時と終了時にも、移動のための時間を若干考慮する。昼休みという時間帯は特にない。1日の授業時間帯は朝8：00～夜20：00まで。

・日本語日本文学を主専攻とする学生は1年次で60～65名、2年次で40～50名、3年次で35名ほど。1年次は2クラスに分けるが、基本的に1各学年1クラスで授業を行う。よって1クラスの人数は多い。修士課程にも毎年10名ほど進学する。(現在、1年次～修士課程に在籍する総学生数は約180名。この他、他学部所属の学生で選択科目として日本語を履修している者が20名ほどいる。)

・日本語関連の週あたりの授業時間数は、1年次～3年次までいずれも5.5コマ（11時間）（1年次あたりの履修時間は308時間（11時間×28週）となる)。さらに文学・歴史の授業が週1コマある（現在1年次で文学。2年次と3年次に歴史)。この他に、学生は副専攻（英語・韓国語・ドイツ語など）の科目も受講し、かなり1週間の授業時間数は詰まっている。

・既習者（高校で日本語を学んだ学生）は、1年次には日本語クラスの半分は別クラスで行う配慮がなされている。(ルーマニア国内で日本語を教えている高校は計4校。小中学校レベルでもブカレストで2校教えられている。）ブカレストには、日本語を第一学国語として学ぶことのできる高校も1校ある。

・使用教材は、1年次で『日本語初歩』をメインテキストとして、それに準じたプリントや、e-learning 教材（例：ジョージワシントン大学作成「Visualizing Japanese Grammar」)、『ロールプレイで学ぶ日本語会話-ブルガリアとルーマニアで話そう』（オリジナルのテキスト）など。2年次では『中級へ行こう』のほか『テーマ別中級から学ぶ日本語』、『ロールプレイで学ぶ日本語会話-ブルガリアとルーマニアで話そう』(同上オリジナルテキスト)、それに準じたプリント教材など。3年次では『中級を学ぼう』『日本語上級読解』、新聞記事などの生教材。いずれもグループワークや調査・発表形式なども随時取り入れて活発に授業を行っている。3年次には、学生が自ら日本語を使ってビデオクリップを作成する授業や、翻訳あるいはビジネス日本語などの授業も開講されている。

・3年次では卒業論文が必修。ルーマニア語で執筆してよいが、日本語（言語学)、あるいは日本文学（ルーマニア語に翻訳されていない作品の翻訳も含む）をテーマとする。

【教育・研究】

	・３年次修了時点での到達目標は、日本語能力試験２級合格レベル。（専攻としては１級合格まで引き上げたいという気持ちはある。）日本語力をベースに、日本文化・文学・歴史の基礎知識を身に付けることが学部生教育の目標。大学院レベルでは、日本研究により力を入れていきたいと考えている。日本研究をテーマに博士後期課程への進学も可能な体制はできている。今後、日本研究のセンターのようなものを設立し、研究面を強化し、人材を育成していくことも構想としてはあり。 ・教育現場では、若く熱心な教員を中心に、教員同士が密に連絡を取り合って活発に活動している。日本語の授業については、ルーマニア人教師も日本人教師も同等にクラス授業を担当しており、日本人だから、あるいはルーマニア人だからという固定観念にとらわれることなく、お互いに授業のやり方を見て、良い部分を取り入れ、学び合う姿勢がある。 【交流】 ・早稲田大学、お茶の水大学、明治大学、大阪大学、学習院女子大学、奈良教育大学、鹿児島大学と交流協定あり。秋田大学とも協定締結に向かっている。毎年 7～8 名の学生が日本に留学する。 ・東京外国語大学からは、大学院前期課程日本語教育学専修コースの学生 1 名が、今年度臨地実習先として受け入れてもらい、日本語教育実習を行った。学生たちに非常に好評であった。 ・東京外大とも、今後ぜひ交流協定を締結できるよう、学生および教員の交流を続けていきたい。 【日本語日本文学専攻の学生インタビュー①（2 年生 2 名）】 ・一人（A さん）は高校生の時から個人的に大学生の友人に日本語を教えてもらっていた。一人（B さん）は大学に入ってから勉強を始めた。いずれも小さい頃から日本のアニメやテレビ番組を見て、日本の文化・歴史・社会に興味があった。今はアニメだけでなく日本の文学にも興味がある。 ・日本語の勉強だけでなく、日本の文学・歴史の勉強が面白い。日本語と日本社会のことを深く理解するためには歴史を学ぶことは欠かせないと思う。一番むずかしいのは漢字を覚えることという感想あり。毎日練習しているが、日常的に漢字に接する機会がないからとのこと。 ・A さんは、昨年日本語能力試験で優秀な成績をとり、2 週間日本に留学することができた。留学してよかったのは、自分のレベルがわかるようになったこと。より高いところを目指して、これからもっと勉強しようと思うようになった。 ・B さんは今年の 9 月から 1 年間交換留学で日本へ行く。伝統的な日本文

	化に関わる活動をしたいと思っている。（弓道、お茶、書道など） ・ 将来についてはまだ考えているところだが、日本と日本語に関係のある仕事ができればもちろんいいと思う。日本語・日本文化関連の研究にも興味がある。 【日本語日本文学専攻の学生インタビュー②（3 年生 1 名）】 ・ 高校から日本語を勉強していた。まだ留学経験はない。日本語の勉強が大好きである。日本に関することはすべて興味がある。文学・映画・ドラマなども興味があり、映画やドラマなどはよくインターネットで見ている。日本人の考え方・行動のしかた、特に日本人の礼儀正しく真面目なところをすごくよいと思っている。 ・ もし留学できたら、勉強だけなく、日本人と話したり、ホームステイをして日本人と実際にいっしょに生活してみたい。 ・ 卒業後の進路はまだ考えていない。たぶん大学院へ行くだろうと思う。 【日本語日本文学専攻の学生インタビュー③（3 年生 1 名）】 ・大学推薦の日研生として留学経験あり。 ・ 日本語の勉強でおもしろいと思うのは、いくら勉強しても、まだまだ勉強することがあるということ。言語と文化の両方の勉強が必要だということ。 ・ 日本に留学すると、全部日本語で勉強するということが、国で勉強しているのと一番大きな違い。全て日本語で聞き、読まなければならないので、努力が必要。でも、上達も早い。留学先の日研生のクラスが自分の力より少し上だったと思う。それでがんばらなければならないと思い、そのことが自分にとって結果的によかったと思う。 ・ 日本に留学して、言語がコミュニケーションのためにあるということに改めて気づかされた。単語・文法だけでコミュニケーションが万全でないことに最初はショックもあった。自分の日本語が相手に伝えているニュアンスについて指摘されて、初めて気づいたこともあった。 ・ 留学してよかったのは、日本の中に入って日本を見ることができたこと。同時に、自分の国を外から見られるようになったこと。日研生にはいろいろな国からの留学生がおり、皆と一緒に勉強し、違う文化・考え方に触れることで、自分のやり方についてよく考えられるようになった。 ・ 留学する前は、目標というのは短期的なものしか持っていなかった。留学後は、もっと長いスパンで目標を考えるようになった。勉強の内容も、留学前は 1 週間で漢字をいくつ覚えるとか、何ページの何の問題をやる、などの実際的な課題の立て方をしていた。今は、もっと長いまとまった

	文章を読む、あるいは NHK のニュースを聞くなど、勉強の「内容」を考えるようになった。漢字の練習も１つ１つ取り出すのではなく、文章の中で見た方がよく覚えられるようになった。勉強のスピードも速くなった。 ・ 日本についての情報収集は、大学や大使館のほか、今はインターネットをよく使っている。 ・ 日本に留学できるチャンスがもっと増えるといいと思う。留学した人が多くなれば、専攻の学生みんなのレベルが上がると思う。

（報告作成日：2010 年 4 月 7 日）

1 年生の授業のようす

2 年生の授業のようす

外国語学部の入口

先方の先生方（と）